

## 42 手術が施行された患者における肺血栓塞栓症の発生率

### 指標の解説

- 肺血栓塞栓症は、「手術あり患者における肺血栓塞栓症予防対策実施率(リスクレベル中以上)」の解説でも記述した通り、血栓の大きさや血流障害の程度によっては死亡する場合があります。
- 肺血栓塞栓症の発症率が低ければ、院内で適切な予防対策を実施しており、周術期における患者管理の質が高いことがわかる。

分子:手術後の肺血栓塞栓症の発生数

分母:全身麻酔かつ肺血栓塞栓症発症のリスクレベルが「中」以上の手術を施行した症例数

